



まだまだ暑い日もありますが、秋分の日を過ぎてからというもの、少しずつ日の暮れる時間が早くなっているのを実感しています。この季節になると、中原養護学校はキンモクセイの香りに包まれます。道路に面した場所から木々を見上げると、香りとともに小さな花がたくさん咲いている様子が見られ、あたり一面に香る空気に、秋の訪れを感じる井田の丘です。季節の変わり目でもあるこの時期は、乾燥したり気温差も大きくなったりしますので、体調管理にも気をつけていきたいと思います。

さて、秋と言えば「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」などいろいろなものが頭に浮かんできます。

10月10日は「体育の日」の祝日でしたが、この日は今から52年前の1964年、東京オリンピックの開会式が行われた日です。4年後には再び東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、特別支援学校としてもスポーツを通じた交流や余暇活動につながるきっかけをつくる大きなチャンスがやってきました。今まで児童生徒が取り組んできたスポーツをさらに推進するとともに、子どもたちの未来につながるための新たな取り組みを始めたところです。たとえばパラスポーツに親しんだり、誰もが楽しめるように一人ひとりに応じたゲームの工夫をしたり、校内から校外へ、在学中から卒業後へと、時間的にも空間的にも児童生徒の活動の場を広げたりすることで、共に楽しみ、共に学び、共に生きる社会を推進する動きにつなげたいと思っています。

今回のリオパラリンピックで日本チームが銀メダルを獲得した「ボッチャ」は、テレビ等でも取り上げられる機会が増え、関心が高まってきました。この競技は青6球、赤6球、白1球を使い、コートにボールを投げ入れたり転がしたりして得点を競うゲームです。中原養護でも体育の授業などで取り組んでいる競技ですが、先日他校との試合に本校から3名の小学部児童が参加してきました。予選リーグ、決勝トーナメントと戦って見事第3位銅メダルを獲得しました。今回はチームのメンバーに保護者の方や教員、また学校によっては卒業生や地域の人なども加わり、白熱した戦いの中にも温かい交流の輪が広がるのを感じました。初めはあまりルールを知らずに応援していた人たちも、ゲームを見ているうちにどんどん面白さに引き込まれ、見るだけでなくやってみたいと思った人も多かったようです。年齢、障害の有無に関わらず誰でもできて対等に試合ができ、一緒に楽しめるすてきなスポーツです。詳しいルールはここでは省きますが、いずれ児童生徒の中からパラリンピック選手が出ることも夢見ながら、競技を通じた交流を目指していろいろな人に幅広くご参加いただき、面白さを実感していただく機会をつくれたら、と思っています。

10月12日には本校で避難訓練を行いました。火災を想定した訓練でしたが、児童生徒や

教職員がとても真剣に取り組んでいた、と消防署の方から評価していただきました。訓練のための訓練にならないようにすること、不足している備えに気づき準備を積み上げること、また災害時に自分はどう判断し、どう周囲と連携して安全に行動するか等の意識を高めることを常に考えて、今後も実践的な訓練を重ねていきたいと思えます。また、今回も地域の施設の方々にご参加いただき、見学とともに今後につながる連携を図る機会にもなりました。